

〔日本書紀垂六〕三十九年十月、五十瓊敷命居於茅渟菟砥川上宮、作劔一千口、因名其劔謂川上部、亦名曰裸伴、裸伴此云阿箇、潘娜我等母、藏于石上神宮也、是後命五十瓊敷命、俾主石上神宮之神寶、

〔太平記二十一〕鹽冶判官讒死事

八幡六郎無限悅テ、元ノ小家ニ立歸リ、我ハ矢種ノ有ン程ハ、防矢射ンズルゾ、御邊達ハ内ヘ參テ、女性少ナキ人ヲ差殺シ、進テ家ニ火ヲ懸テ腹ヲ切レト申ケレバ、鹽冶ガ一族ニ、山城守宗村ト申ケル者、内ヘ走リ入、持タル太刀ヲ取、直シテ、雪ヨリモ清ク花ヨリモ妙ナル女房ノ智ノ下ヲツキサクニ、紅ノ血ヲ淋ギ、ツト突トヲセバ、アツト云聲幽ニ聞ヘテ、薄衣ノ下ニ臥給フ、五ニナル少人太刀ノ影ニ驚テワツト泣テ母御ナウトテ、空キ人ニ取付タルヲ、山城守心強カキ懷キ、太刀ノ柄ヲ垣ニアテ、諸共ニ鏢本迄貫レテ、抱付テゾ死ニケル、自餘ノ輩二十二人、今ハ心安シト悅テ、髮ヲ亂シ大裸ニ成テ、敵近付バ走懸々々、火ヲ散シテゾ切合タル、

文身

〔倭訓栞前編三十三〕もとろけ 日本紀に文身を、みをもとろけとよめり、まだらかと通へり、枕草紙にも山ゐもて、すりもとろけかしたる水干ばかまといへり、靈異記に候をもとろけかすとよめり、

〔日本書紀七景行〕二十七年二月壬子、武内宿禰自東國還之、奏言、東夷之中有日高見國、其國人男女並椎結文身、爲人勇悍、是總曰蝦夷、

〔陰德太平記七十三〕高城兩處合戰之事

島津勢先陣ノ内、島津歲久ノ子三郎兵衛忠親ヲ始トシテ、五百餘討レケルニ、皆二ノ腕ニ、何氏何某、行年何十歲、何月何日討死スト、イレズ、刺シテ在ケルトカヤ、

〔魏志三十九〕烏丸鮮卑東夷傳、倭人在帶方東南大海之中、略、至女王國、萬二千餘里、男子無大小、皆黥面

文身、自古以來、其使詣中國、皆自稱大夫、夏后少康之子、封於會稽、斷髮文身、以避蛟龍之害、

〔年々隨筆四〕下すのかぎり、グハエン、鳶の者などいふにいたりては、常に裸にて、かひな肩のあた